

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2013.5.5/15 No.165 連絡先 FAX 042-555-1911



オスプレイ 初のパラシュート降下訓練 3日連続で110人超 沖縄 伊江島

5月1日、沖縄の米軍伊江島補助飛行場で、米海兵隊MV22オスプレイからのパラシュート降下訓練がおこなわれました。伊江村がオスプレイによるパラシュート降下訓練を確認したのは初めてです。(右：環境レビューによる伊江島でのオスプレイの飛行ルート)

訓練をしたのは、米陸軍トリイ通信施設に所属する兵士6人です。そのうち1人が米軍基地外の民間地に着地しました。

この兵士が着地したのは牧草地で、周辺住民や農作物への被害は確認されていませんが、着地した20メートル先には、畑で農作業をする住民もいました。

パラシュート降下訓練は、3日連続実施されました。

オスプレイは、1回につき最大8人が降下し、延110人以上の兵士が降下しました。パラシュート降下訓練の実施について、米軍や沖縄防衛局から伊江村への事前通知はありませんでした。

また、5月2日は伊江島と普天間飛行場での夜間離着陸が確認されました。普天間飛行場は午後10時から翌朝午前6時まで原則飛行しないとの騒音防止協定がありますが、これに違反しています。オスプレイ運用の日米合意では全ての基地で午後10時以降は「運用上必要と考えられるものに制限される」とあります。伊江島もこの取り決めをほごにされました。

伊江島でのパラシュート降下訓練は1996年の日米特別行動委員会で合意しています。ただしオスプレイの環境レビューに伊江島でのパラシュート降下訓練は記載されていません。

オスプレイによるパラシュート降下訓練を止めさせましょう。

オスプレイの飛来もパラシュート訓練もNO！

伊江島では1機からのパラシュート降下の兵士は最高で8人。横田基地では1機から兵士が15人降下しています。滑走路が長く、多様な訓練ができます。横田では昨年600人を超える兵士がパラシュート訓練を実施しました。異常なことでした。

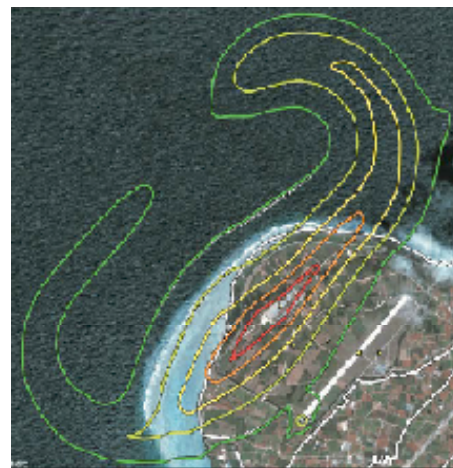
危険なオスプレイのパラシュート訓練を人口密集地の横田基地で、けして許してはいけません。事故の起こる前に、オスプレイは全機撤去させましょう。

普天間基地 今年夏MV22オスプレイ12機追加 知事も反対を表明

4月29日、小野寺五典防衛相とヘーゲル米国防長官は、沖縄の米海兵隊普天間基地に垂直離着陸機MV22オスプレイ12機を今年夏に追加配備する方針を確認しました。普天間基地には既に12機が配備されており追加配備されれば24機になります。

昨年10月の普天間配備以降、沖縄でのオスプレイの飛行実態は、日米両国が合意した運用ルールの違反が常態化。訓練は実戦化し激しさを増しています。県民の危険や不安は増すばかりです。

沖縄県の仲井真知事は4月30日、「県民の不安は払拭されていない。さらに12機はOKですよとはとても言えない」オスプレイの「運用ルールはほとんど守られていない」と、追加配備に反対の考えを表明しました。沖縄県民が反対しているのに米国にNOと言えない日本を変えよう！



米統合参謀本部議長デンプシー陸軍大將が横田基地を訪問

(No. 165 の裏面)

4月25日の米軍横田基地のホームページに、「米軍制服組のトップ、第18代、米統合参謀本部議長 マーチン・E・デンプシー陸軍大將が横田基地を訪問した」というニュースがあり、体育館で数百人の米軍関係者を前に、スピーチを行ったり、親しく兵士と交流する様子(右写真)や、乗ってきたC-32Aの飛行機が載っています。



報道によると、デンプシー議長は、21日に中国を訪れ、22日、中国人民解放軍の房峰輝総参謀長と会談、翌23日には、国家主席習近平氏と面会。韓国では、韓国軍トップの鄭承兆 合同参謀本部議長、在韓米軍サーマン司令官と会談。日本では、25日、横田基地に到着後、横田基地でスピーチ等行い、26日は自衛隊の岩崎茂統合幕僚長、安倍首相、岸田外相、小野寺防衛相と相次いで会談したようです。米軍にとって横田基地は、フリーパスです。

キルギス 米軍のKC135空中給油機が墜落 乗員3人死亡 横田だったら！

報道等によると、中央アジアのキルギスで5月3日、米軍のKC135空中給油機がマナス基地を離陸直後に空中で爆発し墜落しました。この事故で、乗組員3人全員が死亡しました。墜落機は昨年7月27日に横田基地に来て、31日に離陸したKC-135R(63-8877)です。カンザス州・マッコネル空軍基地の所属ですが当時は、



(写真：2012年8月1日 yokotajoho ブログより) 沖縄県嘉手納基地に配備されていて、ステルス戦闘機F-22の空中給油に来ていたようです。

アフガニスタンで 民間貨物機が墜落 米国人乗組員7人全員死亡

報道等によると、アフガニスタンで4月29日、首都カブール近郊のバグラム空軍基地からアラブ首長国連邦のドバイへ向かう予定のボーイング747(N949CA)が、離陸直後に墜落し、乗組員7人全員が死亡しました。機内には車両や一般貨物を積んでいました。離陸中に積荷が移動したと乗員が報告しており、急激に重心が変化した事が原因の一部と考えられています。事故当時、付近を走行中の車両が偶然に事故の様子を撮影しており、離陸直後に失速している機体が確認できます。この墜落機も横田に飛来していました。(写真：2013年4月3日同上ブログより)



米軍横田基地が戦後68年間、東京に居座り続けているのは何故

1945年8月14日、日本は正式にポツダム宣言を受諾。9月2日、日本は降伏文書に署名、アメリカの占領下となります。米軍は旧帝国陸軍多摩飛行場を接收し、米軍横田基地としました。

1951年9月8日調印、1952年4月28日発効のサンフランシスコ講和条約で、日本は形の上では独立国となりましたが、沖縄、奄美大島、小笠原、千島列島は、切り離されました。屈辱の条約です。

講和条約と同じ日に調印・発効した 旧日米安保条約は、日本全土における米軍基地の自由使用を認め、占領下の米軍基地をほとんど継続させました。行政協定は、「日本は合衆国に対し、(略) 必要な施設および区域の使用を許すことに同意する」という、アメリカの「全土基地方式」でした。

1960年の現行安保条約も「全土基地方式」がそっくり受けつがれました。

「日本国民の多数を代表する平和的政権が成立すれば、連合軍は日本から撤退する。」というポツダム宣言でしたが、講和条約発効後も米軍は日本から撤退しません。日本は米軍「基地国家」になりました